

「主の力を信じて待ち望む」

～祈りの極意、その心とは～

こうお答えになると、イエスは、見守る使徒たちの目の前で天に上げられ、たちまち雲の中に姿を消されました。彼らがおも目をこらして見上げていると、突然、白い衣を着た人が二人、そばに立って言いました。「ガリラヤの人たちよ。なぜ空ばかり見上げているのですか。イエスは天にのぼりましたが、いつかまた、今と同じようにして地上へ帰って来られるのです。」使徒行伝1章9～11節[リビングバイブル]

2000年前はヘリコプターも飛行機もありませんでしたし、空飛ぶものは鳥のような動物以外にはなかったでしょう。そんな現実生活の中で人がそのまま天に引き上げられるようにして空中へと見えなくなっていく姿を見ることは驚異的なことでした。しかし、そんな現実をはるかに越えた想像もつかない光景を目の当たりにした弟子たちでしたが、その後は、自分たちのもともとの現実に戻っていき、あの時の光景は夢だったのだと感じるようになっていったかもしれません。しかし、天使たちの言うには、その時の夢のような光景と同じように、もう一度イエスは天から降りて来るとのこと。その時まで弟子たちは、イエスの救いの知らせを全世界に伝えるという使命が与えられていました。

彼らの現実の中で、どうやってイエスの救いの知らせを全世界に伝えていくことができるのか？その唯一の方法は、聖霊という非現実的な天からの力によって、この現実世界に伝えていくということ。そのために彼らに必要なことは、主の約束を待つということでした。神のタイミングに生きる人生にシフトするということです。

弟子たちはくじ引きという旧約時代から行っていた方法を使って、ユダによって一人欠けた12弟子のメンバーを補充しようとしていました。多くの牧師先生方は、この出来事は聖書的に正しいことのように語られていますが、ポーマン・ルリ子先生のメッセージによって以前に教えられたことは、後にパウロが回心することで、それが満たされるはずだったのに、先走ってしまったという内容が正しい受け止め方であると感じています。私たちは神様の御心がすぐになされないと、自分たちの思い付きだけで、くじ引きのように人間的な方法を用いて、神様の御心を決定してしまいたいという誘惑に負けてしまいそうなことがあります。しかし、主はここで聖霊を頂く必要があること、そして、そのためには神の御心を信じて待つことを求められました。しかし、決してあきらめる必要はありません。ルカ11章13節でも語られているように、誰でも求めさえすれば、神様からの豊かな力、天よりの超自然的な力である聖霊様をいただくことができるのです。そのために必要なことは主を信じて待つことが必要不可欠なのです。